

事業所名

おもちゃ箱いこま (児童発達支援)

支援プログラム (参考様式)

作成日

2024年

12月

13日

法人 (事業所) 理念		誰もが幸福になる権利があり、私たちは支援が必要な多くの方に豊かに幸福になれるサービスを提供することを目指します。					
支援方針		一人一人の苦手な所や不器用な所を見つけ、それぞれに合ったプログラムを考えていきます。事業所内で取り組み、克服できたことを家庭や園でも活かしていけるように、保護者や関係機関との連携を大切にしていきます。家庭、園以外の安心できる居場所となるようにしていきます。					
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	1日の取り組みの見立てを付けやすいように、タイマーや絵や文字のカードを用います。トイレの不安感を取り除き排泄の自立を促します。食事、おやつの時に、席を立たずに全員で「いただきます」、「ごちそうさま」ができるようにします。衣類の着脱、自分の物の管理、玩具の片付けなどが自発的にできるようにします。					
	運動・感覚	集中力を持続するための体力づくりとして、中距離走や鬼ごっこをプログラムの中に入れます。文字をなぞったり、はみ出さないように塗り絵をしたり、道具を用いて着席をして過ごせるように注意します。リトミックを取り入れリズムや音をよく聞いて粗大運動などを行ないます。					
	認知・行動	時計にシールを貼ることで時間に親しみやすい環境づくりをしています。色、形、模様を、絵カードを使用して判別できるように、ゲーム性のあるプログラムを取り入れています。写真、絵、文字のカードを用いてお買い物ごっこを取り入れることで、メッセージから行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援します。					
	言語 コミュニケーション	自由遊びの時間に玩具の貸し借りを多く経験することで、コミュニケーションの基礎的能力の向上を目指します。言葉が出にくい子にはPECSカードを用いてコミュニケーションの手段として活用します。癇癪を起こした時にABAを用いて対応します。					
	人間関係 社会性	集団遊びの中で友達の顔や名前を覚える機会を作り、他者への関心を高めます。二人組、三人組など少人数のグループ行動を取り入れ、他者のペースに合わせられるようにしていきます。「おままごと」や「ごっこ遊び」を通して社会性の発達を支援します。					
家族支援		毎日活動報告を行います。困りごとなどあれば一緒に考えます。			移行支援		園と連携をはかるために、必要に応じて訪問し、支援内容等の具体的なかわり方について情報共有をします。
地域支援・地域連携		家庭に対して最適な支援が行えるように、必要に応じて関係機関と連携をはかります。			職員の質の向上		月に一度のスタッフミーティングを行い、スタッフが一貫した療育を行えるようにしていきます。感染対策委員会や虐待防止委員会の研修を年に数回行います。
主な行事等		クリスマス会、大掃除、ショッピング、おもちゃ箱銀行、課外活動、クッキング、避難訓練、水遊び					